

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(大学改革推進事業)
：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要：

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として採択された。全国で15拠点が採択されている。本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：石垣教授（学長）、吉田教授（研究科長）、今井教授、松原教授、彦准教授、
岩城准教授、原子特任助手、入道教務学生課長、松田課長補佐

活動内容：

1. 本科生（がん看護専門看護師）の育成の検討

- 1) 今年度から、これまで以上に専門的ながん看護専門看護師の育成を目指し、共通科目B（3P）6単位と「がん看護学実習Ⅲ」4単位を追加し、38単位履修による教育を開始した。それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化、実習内容の強化（医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化）を行った。今年は、3名の大学院生が入学した。
- 2) がん看護専門看護師として、国際的知識・技術の習得のため、イギリス緩和ケア視察・研修に参加し、北陸3県でのテレビ会議システムを通じて、研修報告を行った。

2. 北陸3県の看護師へのがん看護に関する知識・技術の普及

1) インテンシブコースによる育成内容の検討・評価の実施

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

<インテンシブAコース>

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブAコースを実施している。本コースには2名の申込みがあった。

<地域がん看護師養成コースⅠ>

大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、4名の申請があり、「臨床薬理学」「病態生理学」「フィジカルアセスメント」の科目を履修した。

<地域がん看護師養成コースⅡ>

テレビ会議システムによって北陸3県の15の病院と5つの大学間で、がん看護に関する事例を検討している。事例検討の後には、がん看護専門看護師によるミニレクチャーを実施している。各自の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度は、13名の看護師が参加した。

<地域がん看護活性化コース>

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、3名の看護師が申請した。

2) 「リンパ浮腫ケア症状マネージメントを学ぶ」研修の企画・評価

今年度は、京都大学医学部附属病院のがん看護専門看護師を講師として招き、8月23日、24日両日、本学成人看護学実習室にて実施した。およそ40名の看護師が参加した。概ね満足の評価が多かった。

3) 臨床倫理セミナーの企画・評価

今年度は、進藤喜予氏（市立芦屋病院 緩和ケア内科部長）、石垣靖子氏（北海道医療大学客員教授）、清水哲郎氏（東京大学特任教授）を招き、9月5日にホテル金沢にて実施した。およそ60名の看護師の参加があった。内容は概ね満足の評価が多かった。

4) 市民公開講座によるがん看護に関する知識の普及

6月14日（土）ホテル金沢にて、「がん体験者とその家族への支援」と題して、市民公開講座を実施した。第1部では、HOPE Treeの代表者の東京共済病院がん相談支援センターの大沢かおり氏による「がん体験者とその子どもへの支援」の講演と、乳がん患者会「スマイルリボン」の小池真実子氏が「ここからまた始める～私らしい生き方～」というテーマで講演した。第2部では、女性クリニックWe富山の江嵐充治院長による「最新の乳がん治療」の講演を実施した。当日はおよそ75名の医師、看護師、がん体験者が集まった。概ね満足の評価であった。

3. 各企画のアンケート内容の検討・評価

上記各コースおよび企画を実施後は、参加者からのアンケート集計を行い、次年度に向け評価を行った。リンパ浮腫ケア研修は、がんプロ事業によって知識・技術の普及も高まっていることから参加者が減ってきている。来年は1日実施とすることを決めた。また、倫理事例検討会については、来年度はがん看護と老年看護、そして精神看護専門看護師との企画を検討し、老年のがん患者の事例を手がかりにリポート方式で実施することを検討した。また次年度は、国からの補助金の削減に伴い、各企画を本学で実施することを検討。また、本科生の海外研修の補助費の見直しを行った。

12.1.1.1 がんプロ運営委員会

委員長：岩城直子 准教授

委員：金谷講師、子吉助教、寺井助教、川端助教、松本助教、原子特任助手

事務局：松田課長補佐

活動内容：

1. 本学「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」内容の実施

1) 「リンパ浮腫ケアの症状マネージメントを学ぶ」の準備・実施・アンケート集計

平成26年8月23日(土)・24日(日)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は39名で、北陸3県全てから参加があった。参加者の多くは、リンパ浮腫患者と接する機会が多い病院勤務や訪問看護ステーションに在籍する看護師、作業療法士であった。セミナーの内容に関するアンケート結果から、受講者にとって「わかりやすい」内容であり、満足度も高く、受講後のリンパ浮腫ケアに関する自己評価も上昇する傾向であった。

2) 「がん看護における臨床倫理事例検討会」の準備・実施・アンケート集計

平成26年10月4日(土)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。「セミナー後の問題解決への自信」について、「どちらかといえば自信がない」の回答が多い傾向にあったが、セミナー受講後の臨床倫理の事例検討に関する自己評価はセミナー受講前より有意に上がっていた。

3) 「がん患者とその家族への支援」の公開講座の実施、アンケート集計

平成26年6月14日(土)の開催に向けて準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は75名であり、医療職以外の参加が3割であった。講演の満足度は高かった。

4) 「がん患者の就労・雇用支援を考えよう」の公開講座の実施、アンケート集計

平成26年12月7日(日)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。講義内容について「参考になった」と答える人が85～95%以上で、パネルディスカッションに関しても同様の結果であった。

12.2 大学間連携共同教育推進事業—ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト—

実施団体名

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」
石川県における高等教育機関 19 の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）

概要

平成 26 年度、石川県立看護大学は、大学間連携共同教育推進事業の本格稼働の初年度として民泊型フィールド実習に取り組んだ。前年度の準備を踏まえ能登町教育委員会との協議に基づき、能登町の柳田地区（柳田公民館）、宇出津地区（高倉公民館）、内浦地区（白丸公民館）3 地区において民泊型フィールド実習を展開することになった。

活動内容

1. フィールド実習オリエンテーション

フィールド実習の目的や方法についてオリエンテーションを実施、学生はオリエンテーション内容を聞き、希望する実習先を選択する。その結果、能登町における民泊型フィールド実習を 33 名の学生が選択した。

2. 能登町町政概要等を知る

日 時：平成 26 年 4 月 24 日（金）16:20～17:50

講 師：能登町長 持木一茂氏

内 容：地域を学ぶ「世界農業遺産を活用した能登町の町づくり」質疑応答・意見交換 他

参加者：1 年次学生約 70 名、その他の学年の学生 3 名、教職員約 10 名

能登町の町政概要をパワーポイントならびに DVD を用いて持木町長から講義を受けた。能登町の人口、高齢化率をはじめとした人口動態に加え、産業、観光、伝統文化などの講義を受けた。学生は能登町に関する理解を深め、地元でありながら、知らない多くの能登町のことについて学びを得た。

3. 能登町の視察

日 時：平成 26 年 4 月 25 日（土）8:00～17:00

場 所：能登町柳田教養文化館（能登町柳田礼部 8-1）まで大型バスにて移動

内 容：①能登町の文化遺産を活かした公民館活動について：教育委員会職員からの講義

②能登町 3 地区のフィールドワークと公民館長等の講義

参加者：民泊型フィールド実習に参加する 1 年次学生 33 名、引率教員 6 名

能登町教育委員会職員 2 名から能登町の公民館活動について具体的に学ぶことができた。地域の生涯教育の拠点として公民館が果たす役割や各地域の特長についてフィールドワークを通して理解を深めた。この日の体験に基づいて 6 月のフィールド実習の活動計画の立案に生かすことになった。

4. 3 地区における民泊型フィールド実習の実施

日 時：平成 26 年 6 月 18 日～20 日の 2 泊 3 日

場 所：①柳田公民館と地域の住民宅（民泊）

②高倉公民館と姫交流センター

③白丸公民館と地域の住民宅（民泊）

参加者：学生 1 年次 33 名、引率教員 6 名

3 地区に分かれて、「地域を知る」取り組みを各公民館の協力・支援を得て実施した。

5. 成果報告会

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）9:00～12:00

場 所：石川県立看護大学大講義室

内 容：各地区で実施した民泊型フィールド実習の報告のテーマは以下の通り

①柳田地区：「柳田地区住民の健康課題と提案」

②倉地区：「漁業、祭り、方言を通して、能登町高倉地区の理解を深める」

③白丸地区：「能登町白丸地区における住民同士のつながり」

参加者：1 年次学生 82 名、教職員約 20 名

6. 各地区との交流継続

地域の祭礼に参加したり、老人会行事にスタッフとして参加したりすることになった。また、グラウンドゴルフの交流を継続していきたいとの要望がでるなど地域交流の継続できる基盤を築くことができた。

外部報告

大学間連携共同教育推進事業 平成 26 年度事業報告書

外部資金

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」連携大学の分担金 80 万円

12.3 大学コンソーシアム石川関連事業

12.3.1 いしかわシティカレッジ「地域と災害（基礎および実践）」

講師

武山雅志（学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会会員）

概要

平成 26 年度シティカレッジ前期科目として「地域と災害（基礎）」と「地域と災害（実践）」を開講した。「地域と災害（基礎）」には 17 名の受講生があり、7 回の講義を実施した。「地域

と災害（実践）」には 15 名の受講生があり、宮城県石巻市における実践活動を実施するとともに最終回には「きずなフォーラム」を開催し、実践活動の振り返りを兼ねて発表を行った。

外部報告：

「地域と災害（基礎）」と「地域と災害（実践）」の活動内容については当研究会の他事業と併せて「平成 26 年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業活動報告書」としてまとめた。

外部資金：

本講座の非常勤講師謝金は石川県公立大学法人と大学コンソーシアム石川および公益財団法人石川県県民ボランティアセンターの間の委託契約に基づいている。

12.4 能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して 3 年目である。本協議会は、石川県（能登半島地震復興基金）、上記 4 大学、奥能登 2 市 2 町が出資して運営している。

活動内容

1. 理事会・幹事会への出席：

理事会は年 1 回（副学長、副市長）、幹事会は年 8 回開催

理事会で能登キャンパス構想推進協議会の翌年度の運営方針を審議・決定し、幹事会が実施する。

2. 能登キャンパス学生教育・活動支援事業の採択・実施：

能登町提案『『美と癒し』をテーマとした活性化プロジェクト』に採択され、長谷川ゼミによる学生達が『ぽかぽか薬膳』を提案した。実際に能登町に出かけ、『ラブロ恋路』の料理長や支配人と話し合い、自分達の作ったレシピ（紙上のメニュー）をどう具体化（料理）していくかについて、意見交換しながら、料理のできる過程を体験した。能登の食材をふんだんに用いた薬膳料理を新たなメニューとして採用された。取り組みの経過を平成 27 年 3 月 21 日に、能登空港会議室において開催された能登キャンパス構想推進協議会成果報告会で発表した。

3. 祭りの輪への参加：

石川県立大学と石川県立看護大学、金沢大学合同で珠洲のデカ曳山祭り（平成 26 年 10 月 11・12 日）に総勢 24 名の学生が参加した。引率教員は 2 名、看護師 1 名である。奥能登珠

洲に再興した祭りにおいて、デカ曳山の由来を学ぶと共に地域住民と一緒にデカ曳山を引く体験をした。

4. 地域大学連携サミット in 穴水の参加（平成 26 年 10 月 18 日）：

奥能登をキャンパスとして活用している医療系学生の事例として『民泊型フィールド実習』の学びを 1 年次学生が発表した。他大学の学生の発表も聴講し、多様な取り組みの可能性について学んだ。

外部報告

1. 地域大学連携サミット in 穴水において『民泊型フィールド実習』の報告 1 年次学生 3 名
2. 能登キャンパス構想推進協議会成果報告会にて『ぼかぼか薬膳』についてメニューを創作し、発表した。2 年次学生 1 名

外部資金

能登キャンパス学生教育・活動支援事業 30 万円